一次救命処置(BLS)
①心停止の判断～胸骨圧迫

1 反応の確認と応援要請を行う

周囲の安全を確認し，可能ならば感染予防をして患者に近づく

2

患者に声をかける．反応がなければ，両肩を叩きながら「大丈夫ですか？」と大声で呼びかける

3

呼びかけに反応がない，または判断に迷う場合は，心停止を疑って速やかに応援を呼ぶ

1 心停止の判断をする

胸と腹部の動きを見て，呼吸の有無を確認する

2

脈拍の有無を確認する

・頸動脈を触知し，10 秒以内で脈拍の有無を確認する

・示指と中指を，のどぼとけに当て(ⓐ)，手前に少しずらしていくと，頸動脈を触知できる(ⓑ)

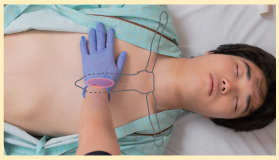
3

上記の反応および呼吸・脈拍の状態を総合的に評価して，正常な呼吸がなく，脈拍も触知できない，死戦期呼吸と判断する，正常な呼吸かどうか判断に迷う，または脈拍を確実に触れることができない場合には，心肺停止と判断してただちに胸骨圧迫から心肺蘇生法を開始する

1 胸骨圧迫を行う

呼吸停止が確認されたら，すぐに胸骨圧迫を開始する

・圧迫部位：胸骨上で，胸骨の下半分または胸の真ん中



・姿勢：胸骨に対して垂直に圧迫

・強さ：6cm を超える過剰な圧迫を避け，約 5cm の深さで行う

・スピード：少なくとも 1 分間に 100 回のテンポ

〈指の組み方〉

・手掌基部を圧迫部位に置き，もう一方の手掌を重ねる

2

30 回の胸骨圧迫後，10 秒以内に 2 回の人工呼吸を行う．これを患者の循環が回復するまで中断せずに繰り返す

・患者の背面が柔らかい場所の時は，背板を使用する

※「一次救命処置②気道確保～人工呼吸」につづく

※上記は書籍の内容を簡略化してまとめている．手順の詳細や，根拠・コツ・注意点などのポイントは書籍にて確認

©『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第 4 版』付録

一次救命処置(BLS)
②気道確保～人工呼吸

※感染防止用の防護具がない場合や，人工呼吸の技術に習熟していない者の場合，人工呼吸は実施せず胸骨圧迫のみでよいとされている

1 気道確保を行う

人工呼吸を実施する場合には，気道確保する必要がある
・水平な場所に寝かせて，頭部後屈あご先挙上法または下顎挙上法で気道を確保する

〈頭部後屈あご先挙上法〉
・一方の手掌を患者の前額部に当て，押し下げるようにして頭部を後屈させる．他方の手の示指と中指をあごの骨のある部分に当て，あご先を挙上する

〈下顎挙上法〉
・患者の頭側から両手で左右の下顎骨をつかみ，あご先を上方に引き上げる

※頭頸部外傷，頸椎症やその疑いがある場合に有効

人工呼吸を実施する

・人工呼吸の開始前に口腔内を観察し，吐物や異物がある時は，それらを取り除く
・義歯や差し歯は可能な限り除去して行う

1 〈口対口人工呼吸〉

人工呼吸用フェイスシールドを患者の顔にかぶせ，その上から患者の鼻をつまみ(ⓐ)，自分の口と患者の口を密着させる(ⓑ)

2

胸郭の動きを見ながら，1回1秒かけて胸が上がる程度息を吹き込む

1 〈人工呼吸用ポケットマスクによる人工呼吸〉

ポケットマスクを患者の鼻と口に当てる

2

胸郭の動きを見ながら，1回1秒かけて，胸が上がる程度息を吹き込む

1 〈BVMによる人工呼吸〉

● 1人で行う場合

EC法でマスクを顔面に密着させる

2

1回1秒かけて胸郭の動きを見ながらバッグを押す

● 2人で行う場合

・1人は患者の頭側に立ち気道確保をしながら両手でマスクを顔面に密着させる(母指球法)．もう1人が1回1秒かけて胸郭の動きを見ながらバッグを押す

※上記は書籍の内容を簡略化してまとめている．手順の詳細や，根拠・コツ・注意点などのポイントは書籍にて確認

©『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第4版』付録

一次救命処置(BLS)
③AEDによる除細動

・AED が届いたらただちに AED 使用の準備をする
※その間も，1 人は CPR（胸骨圧迫，人工呼吸）を継続して行う．これらの妨げにならない場所に AED を置く

1 電源を入れ，音声ガイドに従って操作する

・蓋を開けると自動的に電源が入るタイプもある

注意 胸骨圧迫は AED の電極を貼って解析が始まるまで続ける

2 前胸部が汗などでぬれていないか，電極パッドが密着できる状況かを確認する

3 電極パッドを右胸上部と，左胸下部に貼る

・貼付部位は電極パッドの表面にも図示されており，慌てないこと．またパッドのフィルムを剝がし忘れない

4 電極パッドのケーブルを本体に接続する

・初めからパッドと本体が接続されているものもある

5 電極パッドを貼ったら，音声指示に従い患者から離れる

注意 AED はパッドの貼付後，自動的に心電図解析を始める．解析中は心肺蘇生を中断し，患者の身体に触れない

6 電気ショックの適応と判断されたら，音声で「ショックが必要です」というメッセージが流れるので指示に従う
・AED はこの後，自動的に充電を開始する．数秒で充電が終了すると，「ショックボタンを押してください」といった指示が流れる

7 周囲の人に患者から離れるよう指示を出す
・胸骨圧迫，人工呼吸も中断し，患者から離れる

8 実施者自身も含め全員が患者に触れていないことを確認したら，ショックボタンを押す

注意 患者がベッド上にいる時はベッドからも離れる．マスクなどの物品も近くに置かない

9 電気ショック後，ただちに胸骨圧迫，人工呼吸を再開する

10 胸骨圧迫，人工呼吸を 2 分間行い，脈拍を確認する

11 心拍再開がなく，電気ショックの適応と判断されれば，指示に従い再度電気ショック（⑥～⑨）を行い，心肺蘇生を継続する

12 蘇生チームの到着まで，あるいは患者の体動がみられるか，意識が回復するまで心肺蘇生を継続する

※上記は書籍の内容を簡略化してまとめている．手順の詳細や，根拠・コツ・注意点などのポイントは書籍にて確認

©『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第 4 版』付録